

府障教速報

2010年2月17日

2010年度大阪府当初予算（案）の概要

【障害児学校関係の主なもの】

(1) 予算規模

教育予算総額 5730億1972万1千円 (5762億1788万6千円) <99.4%>

特別支援学校費 381億9981万5千円 (380億9599万7千円) <100.3%>

* () は2009年度当初予算

(2) 学級編制・学級数など

①学級編制基準

幼稚部6人、小・中学部6人、高等部(本科)8人、高等部(専攻科)10人、重複障害学級3人、訪問学級3人

②学級総数 1847学級(80学級増)を予算として確保している

(3) 教職員定数

①特別支援学校教職員定数 4、641人(187人増) ※大阪市立含む

条例定数

職種	配置数	増減	備考
校長	46人	0人	准校長含む(2010年度は新たな准校長は配置しない)。
教員	4、072人	+174人	
養護教諭	79人	+4人	各分校に1名ずつ配置
実習助手	75人	0人	
寄宿舍指導員	54人	0人	
事務職員	154人	8人	各分校に2名ずつ配置
栄養教諭及び栄養職員	37人	+2人	分校のうち「鳥飼校」と「砂川校」に配置
技能員等	124人	-1人	退職に伴う。
非常勤講師時間数	4、304H	+175H	

※ 年度当初配置は4、601人分。残り40人分は年度途中の学級増対応として確保。

【分校に関して】

※「八尾支援学校東校」には「八尾支援学校のすべての高等部生徒が移行するため」という理由のもと准校長の配置を行う。そのために八尾支援学校本校における准校長は配置しない。

※ 教員定数を運用し教頭1名を配置する。

- ※ 「交野支援学校四條畷校」「八尾支援学校東校」には栄養士の免許を保有する非常勤職員を週30時間配置する。
- ※ 教員配置については、今後本校の学校長などとヒアリングを行い実情に応じて配置する。
- ※ 技能員は原則役務費対応を基本としている。
- ※ 首席・指導教諭の配置数の増減はないが、分校への配置は検討中。

②府立支援学校教員配置（「加配」）

配置（「加配」）名	配置校	配置人員	対前年度増減
1 地域支援・交流配置（「加配」）	26校	33人	+2人
2 自立活動・個別の指導の充実配置（「加配」）	26校	37人	-1人
3 進路指導配置（「加配」）	22校	26人	-3人
4 生徒指導配置（「加配」）	13校	13人	-2人
5 分校配置	5校	5人	+4人
6 教頭の複数配置	21校	21人	±0人
7 養護教諭の複数配置	25校	25人	±0人
合計		160人	±0人

（４）施設・整備の整備費

①府立知的障がい支援学校新校整備費・府立支援学校教育環境整備事業

3億0246万7千円（2億5502万6千円）

i) 府立知的障がい支援学校新校整備事業 6023万1千円（1964万1千円）

- ◆ 豊能・三島地域一旧鳥飼高校の施設・校地活用の新校整備の基本設計実施
- ◆ 北河内地域一旧村野中学校敷地活用の新校整備の基本計画の策定
- ◆ 岸和田・泉南地域一砂川高校（2011.3閉校予定）閉校後の施設・校地活用の基本計画策定
 ※上記3地域における新校整備は「たまがわタイプ高等支援学校」の併設とし、就労を通じた社会的自立を支援する観点から、知的障がいのある生徒の就労を通じた社会的自立をめざす。

ii) 府立支援学校の教育環境整備事業費 2億4223万6千円（2億3538万5千円）

※他課計上の分校運営費を含む

②府立視覚支援学校（実施設計など） 1億0582万1千円（4955万8千円）

③支援学校施設整備費 4927万2千円（4696万9千円）

（支援学校のバリアフリー化など）

④緊急4ヵ年学校環境整備事業 0円（1278万4千円）

（府立支援学校に温水洗浄便座の設置）

⑤支援学校大規模改修事業費 1億4578万6千円（4億9853万0千円）

※大規模改修等の詳細については後日連絡します（現在資料請求中）。

(5) 学校管理費・旅費等

府立支援学校の管理運営費など

- ①一般管理費（警備員委託料3800万円を含む） 6億7850万6千円（6億0702万3千円）
- ②府立支援学校通学バス運行費 15億7019万5千円（13億9261万0千円）
- i) 運行台数 170台（+17台）うち、民間委託160台、直営10台
増車 豊中支援1台（中型）・分校16台（大型1台、中型9台、小型6台）
- ii) 4分校における通学バスの配車予定

分校名（仮称）	配車台数	配車の内訳	
		増車分	関係校より
交野支援学校四條畷校	6台（中型5、小型1）	5台（中型4、小型1）	寝屋川支援より1台（中型1）
八尾支援学校東校	8台（中型4、小型4）	6台（中型2、小型4）	八尾支援より2台（中型2）
佐野支援学校砂川校	3台（中型2、小型1）	3台（中型2、小型1）	
吹田支援学校鳥飼校	2台（大型1、中1型）	2台（大型1、中型1）	
合計	19台	16台	3台

- ③教職員旅費 1億5024万3千円（1億5815億0千円）
1人換算 3万2千370円（3万5千510円）

(6) 特別支援教育指導の充実

- ①府立支援学校教育活動用具整備事業費 324万9千円（342万0千円）
（大型の教材・教具の必要性の高いものからの順次整備）
- ②府立支援学校健康安全対策事業費 482万5千円（420万4千円）
（泊を伴う行事への看護師の付添）
- ③医療的ケア実施体制整備事業費 131万8千円（138万6千円）
（医療的ケア研修の充実、実習用人形の購入など）
- ④障がい児理解推進費 189万7千円（198万4千円）
- ⑤府立支援学校就学奨励費 6億2194万4千円（5億6778万7千円）
- ⑥府立支援学校福祉・医療関係人材活用事業費 522万3千円（530万1千円）
- ⑦学校支援人材バンク活用推進事業 281万1千円（295万6千円）
- ⑧府立支援学校職業教育費 453万2千円（475万7千円）
（介護ヘルパー2級取得実習の謝礼、理学療法科などにおける実習謝礼など）
- ⑨府立支援学校ICT教育環境整備事業 0円（1618万8千円）
（各教室へのLAN整備などの建設事業費）
- ⑩支援教育地域支援整備事業（事業推進費） 223万0千円（234万7千円）

- ⑪支援教育地域支援整備事業 5096万5千円(2459万9千円)
 ※ 支援学校非常勤講師配置費のことであるが、予算増は小・中学校の非常勤講師配置をなくして、府立支援学校が地域支援の役割へ「特化」したものの。8時間×2名配置。
- ⑫府立支援学校教材費など(学校管理費) 2839万0千円(2988万3千円)
 ※4分校分含まない。
- ⑬府立支援学校教育用コンピューター整備費 2664万3千円(2665万2千円)
- ⑭印刷業務等効率化推進費 369万4千円(637万6千円)
- ⑮府立支援学校就学指導費 591万1千円(587万6千円)
 (特別支援学校就学指導員2人)
- ⑯柔道整復師要請委託事業 374万1千円(394万1千円)
 ※入学金の値下げによるもの
- ⑰特別支援教育総合推進事業 3405万4千円 【新規】
 (巡回指導など市町村における支援教育体制整備の推進、高等学校における発達障害のある生徒に対する支援体制強化、支援学校における職業教育支援など)

(7) 府立支援学校給食調理業務委託費

1億0838万8千円(1億1923万6千円)

- * 箕面支援・和泉支援・八尾支援・吹田支援・だいせん聴覚高等・富田林支援・堺聴覚・茨木支援の給食調理業務の民間委託を引き続き行う。これらは委託料に関する経費。なお、分校の給食センターなどの委託費は含まない。

(8) その他の主なもの

- ①学校安全総合支援事業 3800万0千円(4000万0千円)
 (警備員配置 09年度より一般管理費に統合)
- ②知的障がいのある生徒の教育環境整備事業(自立支援校9校)
 (学習サポーター謝礼) 1293万8千円(1129万7千円)
 (非常勤講師報酬費-1校あたり12時間) 1130万0千円(3053万6千円)
- ・自立支援推進校9校
 (園芸・柴島・阿武野・西成・松原・枚方なぎさ・八尾翠翔・堺東・貝塚)
- ・共生推進モデル校(たまがわ高等支援学校と連携)を1校(枚岡樟風高校)から、3校(千里青雲高校、芦間高校、久米田高校)増やし、4校設置とする。
- ③府立学校教育支援事業 1億1626万6千円(1億2918万4千円)
 (府立学校長の裁量によって執行することが可能な経費の拡大を図る。2010年度は校長一人当たり65万円。分校加算として1分校10万円)